

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	1312	学校名	山潟小学校	校長名	鈴木 勉	作成者名	関川 芙美香
学校教育推進サポート担当者名			関川 芙美香			電 話	286-6796

1 実践のテーマ

自ら課題を設定し、主体的に学びに向かう力を育む自己選択型単元デザインの構築

2 テーマ設定の理由

多様性を前提とし、「全ての子どもたちの『自分らしさ』が発揮され、『可能性を引き出す』教育」という、新潟市が目指す学校教育の実現に向けて、本校では、「かかわり合いを基盤とした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をテーマに今年度の授業研究を進めてきた。

昨年度の研究にあたっては、天童市立天童中部小学校や新潟市立大野小学校等の研究校の視察を行い、校内で一人一実践を通して、学んだ内容を即実践に生かす取組を行ってきた。そのため、各教室の実践における「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」は、1時間単位の授業実践としては充実したものとなってきた。しかし、単元全体での子どもの学びの様相については、さらに意図的・計画的に学習方法や課題・内容の選択・決定について研究していく必要があると感じた。

そこで今年度は、新潟市授業づくりサポート ver. 2 p41 単元デザインの項目「個別最適な学びを実現する考え方」のA～Dの指導を教科や単元の中で流動的に取り入れ、課題・内容・学習方法を子ども自らが選択・決定していくことができる授業づくりを目指し、実践テーマを「自ら課題を設定し、主体的に学びに向かう力を育む自己選択型単元デザインの構築」とし、全校体制で授業改善を進めていくことにした。

3 実践内容

自己選択型の単元デザインを行うために、本校では次の3点を中心に実践を進めてきた。

(1) 「自己選択型単元デザインシート」の開発

教科領域における「指導の個別化」と「学習の個性化」を図る活動を、単元計画を立てる際に意図的に計画する仕組みづくりを行うために、先進校の実践を参考にしながら本校独自の「自己選択型単元デザインシート」の開発、活用を進めた。「短時間で・効率的に・流動的に」の3つを目指して、ICTを活用しながら実践を積み重ね、加除修正を繰り返しデザインシートづくりを行った。

(2) 児童生徒理解に裏打ちされた「授業と生徒指導の一体的な充実」

単元計画を進めていくにあたっては、授業と生徒指導の一体化を重視した。各教室では日常的な子どもの見とりや信頼関係を構築し、教師間では児童の情報共有などをより緊密に行うようにしてきた。必要に応じてLITALICO教育ソフトの活用や関係機関との連携強化なども図ることで、子ども一人一人の多様性が認められることで、安心して自分の考えを表現できたり分からないところを尋ねたりできる支持的風土を学校全体で醸成し、授業改善に生かせるようにした。

(3) 校内研修体制の充実

各学年での実践については、他学年の職員も実践から共に学び合うことができるような体制を整えた。3つの公開授業を中心として「自己選択型単元デザイン」の授業公開と実践を行い、全教職員で実践を共有することで、研究内容について誰とでも話し合える校内体制を整備した。また、先進校の視察を行い、そこでの視察記録を共有したり、指導主事、外部講師を招聘して研究の伴走をしていただいたりすることで、教職員の資質・能力の向上を図った。

4 実践計画

実施時期	実施内容（研修会、先進校視察、授業公開 等）
5月	・校内研究全体会
5月30日	・先進校視察（富山県富山市立堀川小学校 関川教諭参加）
6月27日	・公開授業研修会（5の1算数：指導者新潟大学講師 有井優太 様）
夏季休業中	・各学年部での単元シートの検討及び作成
10月23日	・先進校視察（東京都目黒区立中目黒小学校 甲斐教諭参加）
10月31日	・先進校視察（妙高市立新井南小学校 福原教諭参加）
11月17日	・先進校視察（山形県天童市立天童中部小学校 高橋教諭参加）
11月28日	・公開授業研修会（1の2算数：指導者新潟大学講師 有井優太 様）
12月22日	・先進校視察報告会（校内）
1月26日	・公開授業研修会（4の1算数：指導者新潟大学講師 有井優太 様）
2月	・年間指導計画の修正、次年度の研究計画の検討・作成

5 成果



算数「単位量あたりの大きさ(1)」学習のてびき

<課題>
いろいろな量のもの、どうしたら比べられるだろうか。

<目標>
いろいろな量の比べ方がわかる。

時	学習内容	教科書	どうやって
1	・どちらが重い？ ・どちらが軽い？ どうやって比べられるか。	p.76-79	みんなで
2	シートのごみくさいを比べよう。	p.79-80	1人で 友達と 先生と
3	1紙あたりのごみくさいを比べよう。	p.80-81	1人で 友達と 先生と
☆チェック1 練習問題			
4	紙をかいて、計量の量その比べ方を考えよう。	p.82-83	1人で 友達と 先生と
☆チェック2 練習問題			
5	いろいろな量を比べてみよう。	p.84-85	1人で 友達と 先生と
6	【単位量あたりの大きさ】は どうやって考え たかな。ふりまわろう。	p.88-91	1人で 友達と 先生と
7	学習問題をといてみよう。	p.88-87	1人で 友達と 先生と

各学年で左の表のような単元デザインシートを作成し、自由進度学習に取り組んだ。子どもたちは次の時間に何をするのか、見通しをもって学習を進めることができ、意欲的に授業に向かう姿が増えたと感じられる。また、1年生では自分で活動の順番を決めたことで、スムーズに活動に移ったり、集中して取り組んだりする様子が見られた。

その一方で、本時の課題に取り組む中で、分からないことがあったときに、どうやって解決したらよいか分からず、困ったままその時間を過ぎてしまっていた児童も見受けられた。自由進度学習の単元に入る前に、一人での学習の進め方や、自分で計画を立てて学習を進めるやり方を子どもと相談して計画づくりの時間を十分にとる必要があったと考えられる。また一人一人の様子を教師が的確に見取って、サポートをするなど、教師の立ち位置や指導のあり方もより深く研修していく必要があると気付かされた。今年度の研修を生かして教職員全体が自由進度学習に対する理解を深め、子どもに委ね、主体的に学びに向かう時間を増やせるような授業改善に努めていきたい。